



リポーター 石井 百合子 さん  
(十二所・中町)

# ハナに会う旅

国際交流初めの第一歩

スウェーデン・ヨーテボリの秋田犬「ハナ」のことは知っていますか。約一年前のこのコーナーで桑名秀明リポーターが紹介した、あの「ハナ」です。今回「ハナに会う旅」を企画実行した、社団法人大館青年会議所理事長の山田和人さんと直前理事長の金澤朗さんからお話を伺いました。

「ハナに会う旅」の発端は、ベネグレン夫妻がハナを飼えるまでの尽力に感謝し、ぜひヨーテボリに来てくださるとの金澤さんへのお願いです。それを受け、この旅を大館青年会議所の創立四十周年記念事業の一環として行うこととしました。「ハナに会う旅」は、①「ハナによって芽生えた大館とヨーテボリの親善を深め、国際交流を図る」。②「社会福祉政策を視察して、日本の高齢者福祉のあり方を考える」。③「環境保護政策と市民生活の視察」という、三点を大きな目的としました。海外旅行にはつきものの、「ショッピング」がない旅にもかかわらず、趣意に賛同してくれたかたが参加してくださったそうです。参加されたかたがたは「北欧の建築を実際に見たい」、「高齢者問題は他人ごとではなく、自分自身に関わることなので福祉の先進国を見たい」、あるいは「長年にわたり福祉のことに携わってきたので行ってみたい」などの思いを持ってこの旅行に臨んだようです。

一行はドイツ・デュッセルドルフを経てヨーテボリに到着しました。いよいよベネグレン夫妻、そしてハナとの対面です。ベネグレン氏は旅の目的を理解してください、ヨーテボリの福祉施設視察の手配など、細部にまで心をくだいてくれたそうです。ハナはベネグレン夫妻のもとでスクスクと大きく成長。また、ベネグレン氏は心から歓迎し、別荘でホームパーティーを開催してくれたそうです。まず驚いたことは、別荘の屋根の上に非常に大きな日章旗が掲げてあったことで、普段なら日章旗には少し抵抗感がある世代でも、自分が日本の代表でもあるかのような感慨があったそうです。



ベネグレン氏と大きく成長したハナ

別荘には在ヨーテボリの日本人も招待されており、大いに交流を深めあったそうです。宴もたけなわとなり、エールの交換ならぬ歌の交換となり、大館からはハナにちなんで「花」を唄ったところ、ヨーテボリのかたたちは、スウェーデンの卒業式で唄われる、いわゆるスウェーデンの「花」でお返ししてくれたんだそうです。

この歌の間、ヨーテボリを訪れるまでの様々な場面が浮かんで、山田さん、金澤さんとも胸に込み上げるものがあったとのこと。この取材の最後に、金澤さんが次のように語ってくれました。

「感謝や感動の気持ちは言葉だけでなく行動に移すことだ。『ありがとう』は行動にして本当に『ありがとう』になる」と。

最初は個人と個人のつながりであったものが、次の人たちとのつながりになり、さらには大館市民とヨーテボリ市民の交流へと広がっていく。ハナはこの最初の一歩のきっかけとなったのではないのでしょうか。今後も大館市民とヨーテボリ市民の交流が続き、「ハナに会う旅」の第二幕があることを願い、最初の一步を歩みだされた皆さんにエールを送ります。



山田理事長(中央)と金澤直前理事長(右)からお話を伺う石井リポーター